

令和 8 年度 第 1 回秋田県埋蔵文化財センター運営協議会
【概要・要旨】

令和 8 年度 秋田県埋蔵文化財センター運営協議会概要

名 称	秋田県埋蔵文化財センター運営協議会
設置根拠	秋田県埋蔵文化財センター運営協議会規定
設置目的	秋田埋蔵文化財センターの適正な運営と円滑な事業の推進を図るため
委員構成	委員長 1 名 副委員長 1 名 委員 7 名 計 9 名（うち女性委員 1 名） ※ 定数 1 0 名以内
委員任期	2 年間：令和 7 年 4 月 1 日から令和 9 年 3 月 3 1 日まで
第 1 回	令和 8 年 6 月 2 9 日 1 4 : 0 0 ~ 1 5 : 5 0 埋蔵文化財センター第 1 研修室

令和 8 年度 第 1 回秋田県埋蔵文化財センター運営協議会 要旨

1 日 時：令和 8 年 6 月 2 9 日(月) 1 4 : 0 0 ~ 1 5 : 5 0

2 場 所：秋田県埋蔵文化財センター 第 1 研修室

3 出席者

委員：7 名

高橋 忠彦	委員長	(秋田県文化財保護協会事務局長)
吉川 寿朗	副委員長	(美郷町立千畑小学校校長)
伊藤 竜喜	委員	(柵の案内人 大仙市ほたるの会会員・史談会会員)
佐藤 秀敏	委員	(秋田県教育庁南教育事務所仙北出張所長)
高橋 秀樹	委員	(大仙市立内小友小学校校長)
高橋 浩	委員	(横手市立横手明峰中学校校長)
平山 雅宏	委員	(仙北地域振興局総務企画部地域企画課課長)
星野 友実	委員	(大仙市立高梨小学校校長)
渡部 育子	委員	(国立大学法人秋田大学名誉教授)

事務局：7 名

袴田 道郎	所長 (兼 払田柵跡調査事務所長)
吉川耕太郎	副所長
佐々木敬隆	副主幹 (兼) 総務チームリーダー (兼 払田柵跡調査事務所副主幹)
加藤 竜	副主幹 (兼) 調査チームリーダー (兼) 払田柵跡調査事務所調査チームリーダー
新海 和広	主任文化財専門員 (兼) 中央調査チームリーダー
宇田川浩一	副主幹 (兼) 資料管理活用チームリーダー
堀川 昌英	主任学芸主事

4 協議内容

(1) 令和 7 年度事業報告

- ① 令和 7 年度 事業報告 (調査関係)
- ② 令和 7 年度 事業報告 (活用・普及関係)
- ③ (参考) 令和 7 年度 払田柵跡調査事務所 調査成果の普及と関連活動

(2) 令和 8 年度事業計画

- ① 令和 8 年度 発掘調査・整理、確認調査一覧
- ② 令和 8 年度 活用普及事業計画
- ③ (参考) 令和 8 年度 払田柵跡調査事務所 事業計画

(3) 本年度の事業等についての提言

5 委員からの御意見・御提言(抜粋)

- ・ほたるの会は、払田柵跡のボランティアガイドで、依頼があれば案内をしている。会員が多くなく、依頼が重なった場合は大仙市の文化財課や埋蔵文化財センターと連携して案内している状況である。ほたるの会は会ができて25年くらいになるが、ボランティアガイドの現状として、会員の高齢化による若返りの課題や、自身の勉強不足を感じる場面がある。今後の勉強会などの機会において、埋蔵文化財センターからの継続的な指導や連携をお願いしたい。また、発掘調査現場にお邪魔して御迷惑をかけるところもあるが、見学した児童・生徒が強い興味を示しており、良さを知ってもらうよい機会になっている。今後ともよろしくをお願いしたい。
- ・県内の考古学指導体制について、現在秋田県内で考古学の指導に対応できる機関が埋蔵文化財センターのみとなっており、県内の考古学研究や教育においてセンターが非常に重要な役割を担っていることを申し上げておきたい。
- ・令和7年度業務実績資料の学校利用状況を見て、大仙市内の特定の学校が複数回センターを活用している。地元の学校は活用してくださっており、ありがたいと思った。一方、大規模校の利用がない。移動に苦勞することが原因ではないかと思う。出前授業もあるので、そのような形で活用できればと考えている。また、仙北市の学校が1校も利用がないが、利用が進まない要因として、移動手段（市のバス等の手配）の課題が推測される。大仙市や仙北市の教育委員会には教育研究所が設置されているので、連携したバス借用の工夫の可能性もある。市の関係する方々にもこの利用状況を明示することがあると何か利用のプラスに繋がるのではないかと思ったところである。さらに、小学校で終わりではなく、中学校の目線でも学習することが可能であると思う。
- ・これまで、6年生を担当している時は利用させていただいた。教員自身がセンターの充実した展示や体験内容を十分に把握していない可能性がある。仙教研という大曲仙北の社会科研究会といった教員の研究団体で積極的に働きかけて、埋蔵文化財センターでは中でこのような展示がある、あるいは実際にこのような体験ができることを呼びかけて教員の知見を広めることが重要であると思う。まず我々教師が得た知見を子どもたちに還元していくことができればいいと思う。委員になってこれだけの事業をセンターで行われていることを初めて分かった。
- ・かつて研修で遺跡の発掘調査や資料の整理をさせていただいた。その時に感じたことは、本物に触れる、見るという機会が非常に大事だなということ。それがまた子どもたちに還元できるいいきっかけになるということを感じた。逆に子どもたちも教科書だけの学びに終わらずに、直接見たり聞いたり体験したりすることが非常に有効であるので、ぜひ機会を捉えながらこのような施設の有効活用も検討することを折に触れて話していきたいと思う。授業の都合で来館が難しい中学校の利用が少ないが、学校に来ていただいてお話を聞く機会は1時間の中でも取れると思う。また、長期休みに2年生が職場体験ということで、今自分の希望する職種に自分でアポイントメントを取りながら、1日から3日程度で、体験するという計画を行っている。中学校ではそのような長期休み中の体験的な活動もあるので、そういったことと連携しながら、埋蔵文化財センターを子どもたちの深い学びの場にしていいただければ大変ありがたい。
- ・国の博物館等に対する「収入比率重視」の方針に疑問を感じている。博物館は研究があつての展示と思われるので、埋蔵文化財センターも「研究あつての埋蔵文

化財センター」と考えている。秋田県内で考古学の専門家が集まる唯一の機関であるため、研究活動に対する十分な予算措置をしていただきたい。また、飛鳥・藤原や平城宮跡などの例から、全国のセンターが有する「地中遺跡の可視化・復元」のノウハウの重要性を感じた。さらに一般の人にも分かりやすく復元・可視化・展示することは大変ありがたいと思う。

- ・ 今月に入り、6年生が見学させていただいた。当初午前中の予定だったが、都合で午後には訪問した。そのような変更にも対応していただいた。本当にありがたい。展示の見学と思い私も様子を見ようと後から訪問したが、6年生がグループに分かれてお話を聞いていた。埋文職員が縄文の服装をしながら解説し、言葉だけでなく図や絵を用いた説明が非常に分かりやすかった。何と言っても熱量が全然違った。子どもたちを本当に引きつけていた。土器に触る活動は、歴史を学んだばかりのところで、興味を持つことだけでなく、興味を広げる感じがした。センターでの学習が、本当に子供たちのためになったと思って見ていた。本当にありがたい。今日は展示室に入って左側にある新しいコーナーを見ていたが、中でも目を引いたのが、立体的に表現した墓の模型だった。このようにしていたんだなということが大人でも一目で理解できるほど分かりやすく工夫されており、見学する立場として非常に嬉しい。
- ・ 令和7年度で事業回数が70回になっている。これは大変な数字で、これだけで見ると週1回以上はどこかで何かを行っている。本来の調査活動を行う傍らで行い、こなせる数字だとすればどんどん今みたいにこれまでのノウハウを活用するか周知の仕方をすればどんどん増えると思うが、あまりいっぱいになるとそれこそこなせなくなり、実施できないことになってしまう。そうなるとう度はなかなか人がつかなくなっていくと思うので、無理のない範囲で事業を継続できるように加減しながら行ってもらいたいと思っている。また、県庁出前講座は対象年齢を問わず、埋蔵文化財センターから出向いていく講座（事業）なので、出前講座を活用していただいて、そこをきっかけに興味を持ってもらい、センターへの来所へと繋げるような動線をつくる工夫をしてほしい。あまり手間がかからず事業ができると思う。たくさん事業を行っていて、続けてもらいたい、あまり無理はしてほしくない、ので、よろしくお願いいたします。
- ・ 本校の6年生も先週埋蔵文化財センターにお邪魔させていただいた。縄文の服を着た職員が説明してくださったり、あと遮光器土偶の眼鏡みたいなものを子どもたちにかけてさせていただいたりするなど、楽しい説明をしてくださったと担任から報告を受けた。分かりやすく楽しくて、子どもたちの興味・関心を引くような説明であった。子どもたちの知的好奇心をくすぐるようなお話をいただいたという報告を受けた。個別の質問にも対応していただき、その答え方が言葉ではなく、絵で説明してくれたということもあったそうで、専門的なことを言葉で説明されることは子どもたちには理解しにくい部分もあるので、絵で説明したり、図で説明するところが昨年とは少し違った点で、すごくよかったという話を聞いた。非常に大事なことだと思ったので、今後もうどうかよろしくお願いいたします。昨年度も運営協議会で話したと思うが、秋田さきがけ新聞での連載がすごく好きで、毎回楽しみにしている。新聞で連載しているような発掘や考古学について学ぶ機会が子どもたちには少ないと思うので、埋蔵文化財センターを見学した際に職業についても一言触れていただければ、子どもたちのキャリア形成にとってはプラスになっていくと思う。

- ・これまでの意見を受け、仙北地域の小中学校の利用促進や仙教研などの教員研究団体への働きかけなど、いろいろと進めていただきたいと思う。また、生徒の職場体験もいいお話だと思う。キャリア育成を伴う事業展開に期待している。久々に展示室を見学して、展示室が時代ごとに順を追って分かりやすく見学できるように改善された点について、職員は苦勞していると思うが、引き続きがんばっていただきたい。

6 センターより（抜粋）：

- ・本日はさまざまな御意見をいただき、感謝する。職場体験に関しては、学校の講話で実際に発掘を担当している調査チームの職員が対応し、現場のリアルな実態を話したことで生徒が引いてしまったことがあった。一方で、現場に行って働くということで、興味を持った生徒もいたようである。このあと9月に入ると、来年度の予算編成時期を迎えるが、御意見を反映していきたいと思う。また、今年度できることに関しては事業に早速反映させていきたいと思っているので、よろしく願いたい。